

はしがき

近年、グローバル経済の進展に伴い、社会福祉のニーズは高度化・多様化している。なかでも、少子・高齢化が進展している日本社会においては、子どもを産み育てることや、要介護高齢者の介護問題などへの不安が顕在化し、それらを解決するための社会的な課題は山積している。そして、保育所不足が子育てと仕事の両立を困難にしている状況、ひとり暮らし高齢者の増加、障害者の生活問題など、社会的なサポートを必要とする人々のニーズも多岐にわたり、人々の社会福祉への期待は高まっている。こうしたニーズに対応するためには、従来の社会福祉制度の枠組みで応えることは困難である。今こそ、包括的かつ総合的な社会福祉サービスの構築と、それらを担う社会福祉の専門職が重要な存在となっている。

最近の社会福祉政策の取組みでは、保育と幼児教育とを併設した、いわゆる幼保一元化にみられる認定子ども園の設置、高齢者介護と保育を同一施設内で提供する統合ケアなど、福祉施設の機能を見直しながら、その効用を最大限に発揮することを目的とした実践が試みられている。つまり、地域で福祉を必要とする人々を多角的に支える仕組みを作っていくことが主流化し、新しい社会福祉の形が創出されようとしている。それに伴い社会福祉を担う総合的な知識や技術、そして、広い教養を兼ね備えた社会福祉専門職の養成が、現代社会において希求されている。

しかしながら、これまでの社会福祉専門職の歴史を振り返ってみると、その多くを女性が担ってきた。しかも、育児・介護などを家事の延長としてとらえてきたため、社会福祉に関する資格は専門性の低い資格とされてきた。だが、1980年代以降の男女共同参画社会への機運が高まったことで、社会福祉の専門職として位置付けられるきっかけとなっている。いまや、保育士、介護福祉士は、時代の要請を受けて、新たな社会福祉を切り開く最たる「専門職」である。

本書は、保育、介護を初めて学ぶ読者を対象に、社会福祉専門職として習得すべき基礎的な知識や、専門職としての普遍的な役割・使命とは何かを問うものである。加えて、現代における社会福祉の諸問題をピックアップしつつ、理論と実践をつなぎ、日本だけでなく諸外国の社会福祉政策のあり方を学ぶことによって世界観を身に付けることも願っている。社会福祉を学ぶ読者にとって、少しでも役立てていただければ、編者としてこれほど嬉しいことはない。

なお、本書刊行への基盤には、愛知県立大学名誉教授の中田照子先生を中心とした「ケア労働研究会」の存在を忘れてはならない。研究会での議論はもとより、社会福祉の形成過程におけるケア労働者に関する動向など、中田先生のご指導、ご支援がなければ本書の完成はなかった。心より感謝申し上げます。

最後に、本書の出版を快くお引受けいただいた法律文化社・代表取締役社長の田麿純子氏、企画で貴重なご助言をいただいた編集部長の小西英央氏、編集および校正などに対して熱意ある励ましなど、ご尽力いただいた舟木和久氏に、記してお礼申し上げます。

2015年8月

執筆者を代表して

三好 禎之